

京都精華大学

2024年4月 入学予定者の皆さんへ

学びのおすすめリスト

合格おめでとうございます。

本学では「Discovery Diary ディスカバリーダイアリー」というワークを入学前の課題にしています。自分が日々興味をもったり、発見したことについてメモしたり、絵を描いたり、調べたり、感想や感動、発見、探究したことなどをクロッキー帳にまとめていく課題です。自分の日常にある「いいね」をたくさん引き出して、自分を知り、今後の学修の中で自分を紹介する素材にもなります。

そこで、各学部や各学科の教員からも「いいね」を紹介してもらい、「学びのおすすめ」としてリストにしました。「ディスカバリーダイアリー」を作成するときの参考や、入学前の準備に活用してほしいと思います。

ただし、これらは必ずやらねばならない課題ではありません。他学部や他学科のリストも含めて、皆さんの発見や探究に迷ったときの情報になり、新たな「いいね」の発見につながれば幸いです。

まず自分が興味を持っていることを確認し、その魅力を他の人とシェアできるようなノートに仕上げてもらえることを願っています。

自分の何気ない毎日の中にある宝さがしをはじめてください。

京都精華大学 共通教育機構長
恩地 典雄

●国際文化学部人文学科

おすすめの本

◎『ものがたりたちの京都 京都文学入門』（京都と文学研究会編/武蔵野書院/2019）

京都を舞台にした文学作品に描かれた「京都」の表象（イメージ）を分析した書籍です。『万葉集』『源氏物語』『徒然草』川端康成『古都』森見登美彦『夜は短し歩けよ乙女』など、古典から近現代までの作品を幅広く取り上げています。京都という「文学」の聖地で「文学」を学ぶ楽しさと喜びを知ってください。

◎『大坂 民衆の近世史』（塚田 孝/筑摩書房/2017）

この本は、江戸時代の大坂を舞台に、男性だけでなく女性にも光を当て、当時を懸命に生きた人びとの生き様を描き出しています。いつの時代も社会の大多数を占めるのは、私たちのような一般の人びとです。そうした人びとの視座から、社会を理解する歴史学を体験してみてください。

◎『社会学入門』（見田宗介/岩波書店/2006）

2022年4月に亡くなった日本を代表する社会学者、見田宗介さんが書かれた社会学の入門書です。「当たり前を疑う」という社会研究の基本的な立場を、身近な現象を材料に、わかりやすい言葉で論じています。大学で社会／文化研究を学ぶ前に是非読んで頂きたい1冊です。

◎『忘れられた日本人』（宮本常一/岩波書店/1984）

民俗学者の著者が戦前に日本各地を旅して市井の人びとの暮らしぶりや風習、伝承について聞き取りをした内容が収録されています。農村、漁村の生活文化や人間関係、説話など、歴史の表舞台に出ない「普通の人たちの普通の暮らし」が生きた言葉で語られています。現代の文化を考えるうえで、かつて存在した文化を知り、その変遷を考える視点はとても大切です。人間の営みに目を向け、自分の足で情報を収集する著者の姿勢にも注目してください。

おすすめの場所

◎ 街の図書館

自分の地元に関わる伝承（昔話）や小説を探してみてください。

◎ 街一番の本屋

大学生になる準備として「街一番の本屋」をしっかり押さえておきましょう。自分のお気に入りの書店を見つけると学生生活は充実したものになります。例えば京都の丸善（本店）は、梶井基次郎『檸檬』の舞台として有名です。

◎ 地元の郷土資料館・地域の歴史に関する博物館

政治レベルの出来事だけが「歴史」ではありません。日本各地には、地域の地理的・風土的条件にあわせた個性豊かな人びとの営みがあり、その積み重ねこそが地域の「歴史」です。まずは、自分の地元の歴史を学んでみましょう。現在の私たちの日常に繋がる、地域社会の歴史的な歩みを実感してください。

●国際文化学部グローバルスタディーズ学科

おすすめの本

◎ Asia Insight - TV | NHK WORLD-JAPAN Live & Programs

おすすめの英語番組 NHK World-JAPAN の Asia Insight をインターネットで見ると英語でアジアの現状を知ることができます。

◎『ミャンマーを知るための60章』（田村克己、松田正彦/明石書店/2013）

一冊まるまる読まなくても良くて、関心のあるジャンルを選んで10分ぐらいで読めるところがおすすめです。2021年2月1日のクーデターで情勢が混乱しているミャンマーのことを様々な視点から学べます。

◎『フィールドワーカーズ・ハンドブック』（日本文化人類学会監修/鏡味治也、関根康正、橋本和也、森山工（編）/世界思想社/2011）

未知の世界を観察し、分析するという、フィールドワークの作法には、身近なところでも実践できることがたくさんあります。

◎『アメリカーナ』（上、下）（チママンダ・ンゴズィ・アディーチェ著、くぼたのぞみ訳/河出書房新社/2019）

日本語で読める、アフリカ出身の作家の小説は、意外とたくさんあります。これは、ナイジェリア出身でアメリカ合衆国で暮らす作家の、自伝的要素も含んだ小説です。小説をとおして、まだ知らない世界を想像してみてください。

◎『イスラームの世界観「移動文化」を考える』（片倉もとこ/岩波書店/2008）

非常に平易で流麗な文体で書かれた「民族誌」です。タイトルは「移動文化」となっていますが、宗教、ジェンダー、生活と、様々な視点から読める名著です。

◎『栽培植物と農耕の起源』（中尾佐助/岩波書店/1966）

アフリカ、アジアを知るうえで、植物や気候の基礎知識を持っていることは大変重要です。この本は非常に長く地域研究者の間で読まれている古典で、50年以上が経った今も多くの人に読まれています。

◎『取材学』（加藤秀俊/中央公論新社/1975）

さまざまな情報があふれる中から自分が何かを知ろうとするとき、必要なものをどのようにして見つけていったらいいのかを考える手助けをしてくれる本です。文献の探し方から人に話を聞くとときに大切なポイントなどがまとめてあります。フィールドワークを始める前に読めば役に立つこと間違いなしです。

◎『バカの壁』（養老孟司/新潮社/2003）

日々私たちが悩んでいるような小さなことも、「それはだれにでもあるよ」と励ましてくれる一冊です。正解は一つではなく、色々な考え方があっていいし、他と違っていてもいい、という著者の言葉に勇気をもらうことができます。

おすすめの場所

◎ 国立民族学博物館

世界の諸民族の社会と文化について、世界を一周するように展示をみることができます。

◎ 大塚国際美術館

複製の世界名画の保存・展示・環境も含めて、「世界発見」への糸口として有効。

◎ パルク・エスパーニャ

スペイン文化圏への導入として有効。ハビエル館の歴史展示などにも親しんで欲しい。

アドバイス

- ・ 世の中で何が起きているのかについてアンテナを立てて知るようにすることが大事です。世界のニュースをチェックする癖をつけ、そのニュースがどこで起きているのか、世界地図で場所を確認してみましょう。
- ・ 毎日15分ぐらい英語を聞いてほしいです。映画、歌、ニュース、アニメ、ドラマなど内容は好きなものを英語で聞くのです。これを毎日続けると耳が慣れて英語を聞き取れるようになります。
- ・ 身の回りの気になったことをノートでもスマホでも書き留めるようにしましょう。そして、気になったことを「調べる」ことを習慣化しましょう。

●メディア表現学部メディア表現学科

おすすめの本

◎『統計学が最強の学問である』（西内 啓/ダイヤモンド社/2013）

高い山に登ればまわりが良く見えるように、部屋を整理すれば気持ちが明るくなるように、世の中のデータをどう処理したら役に立つかということ、身近な例をもとに面倒な数式を一切使わず読み物として、「なるほど」とうなずけるように書いてあります。統計学はすべての学問分野で使います。続編の「実践編」もお勧めです。

◎『モノからモノが生まれる』（ブルーノ・ムナーリ著、萱野有美訳/みすず書房/2007）

優れたプロダクト・デザイナーであり、絵本作家でもあり、デザイン教育のイノベーターでもあったブルーノ・ムナーリの著作です。アイデアを生むためには、その「やり方」を知ることだ、ということが明快に語られています。

◎『スペキュラティブ・デザイン～問題解決から、問題提起へ』（A・ダン&F・レイビー著、久保田晃弘監修、千葉敏生訳/ビー・エヌ・エヌ新社/2015）

「スペキュラティブ」とは「思索的」という意味。サブタイトルにある通り、「答え」としてのデザインではなく「問いかけ」としてのデザインについての本です。とびきり自由な発想のデザインに勇気づけられたりも。

◎『ホンマタカシの換骨奪胎—やってみてわかった！最新映像リテラシー入門—』（ホンマタカシ著/新潮社/2018）

世の中の名作と呼ばれるものが、どのような技法や制作過程で作られてきたのか考えたことはあるでしょうか？この本では、写真家ホンマタカシが、歴史をふまえながらその表現の基底部＝メディアを仔細に読み解き、様々な技法を実験することで、自ら作品を生み出していく試行と思考の過程を垣間見ることができます。メディアに対する視線を養うことができるでしょう。

◎『音律と音階の科学 新装版～ドレミ…はどのようにして生まれたか』（小方 厚/講談社ブルーバックス/2018）

1オクターブ上って、なにが上なの？ドと1オクターブ上のドの間はなぜドレミファソラシドと8つに区切られているの？どうしてドとミを一緒に鳴らすと落ち着いて、ミとファだと落ち着かないの？数学や物理学を通して音と仲良くなる最初の一步がここに 있습니다。

◎『FACTFULNESS(ファクトフルネス) 10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣』（ハンス・ロスリング、オーラ・ロスリング、アンナ・ロスリング・ロンランド著、上杉周作(翻訳)、関 美和(翻訳)/日経 BP/2019）

ファクトフルネスとは—データや事実にもとづき、世界を読み解く習慣。賢い人ほどとらわれる10の思い込みから解放されれば、癒され、世界を正しく見るスキルが身につく。世界を正しく見る、誰もが身につけておくべき習慣でありスキルを身に付けよう。著者ハンス・ロスリングのTEDでのプレゼンも世界への思い込みが変わります。

https://www.ted.com/talks/hans_rosling_asia_s_rise_how_and_when?language=ja

おすすめのWEB サイト

◎ メディア表現学部おすすめプレイリスト (YouTube)

音や音響、聴覚や視覚に関係する、入学前に観ておいてほしい動画を集めました（いくつかは

映画の予告編です。ぜひ本編のほうも観てみてください。

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLfBXLYk4TsRmnABkWZFi1nopqZG0ML-8g>

● 芸術学部造形学科

おすすめの本

◎ 『いとをかしき20世紀美術』（筧 菜奈子/亜紀書房）

京都が舞台のポップなマンガで、近～現代美術を紹介している愉快で深いアート入門本です。

◎ 『めくるめく現代アート』（筧 菜奈子/フィルムアート社）

イラスト満載なので、誰もが楽しく夢中になれる、最先端のアートガイド。

◎ 『世界をゆるがしたアート - クールベからバンクシーまで、タブーを打ち破った挑戦者たち』（スージー・ホッジ/青幻舎）

常識を超えて、世の中に驚きや衝撃を与えた50作品を丁寧に解説。近～現代美術の入門書としても最適です。

◎ 『5歳の子どものできそうでできないアート』（スージー・ホッジ/東京美術）

とにかく図版とデザインが美しいアート入門書。持ってみて、眺めてみて、読んでみて…鑑賞体験をより豊かにするヒントが得られます。

◎ 『現代アートの巨匠 先駆者たちの〈作品・ことば・人生〉(BT BOOKS)』（美術手帖編集部/美術出版社）

誰もが知っておくべき現代アートの77作家の軌跡や作品が、たくさん詰まっています。

◎ 『現代アートの本当の学び方(Next Creator Book)』（会田誠ほか/フィルムアート社）

現代アートをめぐるいろんな疑問に、作家や識者が誠実に・詳しく・わかりやすく答えている良書です。

◎ 『奇想の系譜』（辻 惟雄/筑摩書房）

日本美術・江戸期の大胆奇抜な絵画作品を再評価した名著。もはやスタンダードにもなっている6人の絵師を紹介しています。

おすすめの世界

・作品は実物を見るのが何より大事！美術館やギャラリーへ出かけてみましょう。美術作品を鑑賞し、特に気に入った作品や感動した作品をディスカバリー・ダイアリーにイラストを交えて紹介してください。感想だけでもOKです。

◎ 京都市京セラ美術館 ◎ 京都国立近代美術館 ◎ 京都国立博物館 ◎ 京都芸術センター

◎ 国立国際美術館（大阪） ◎ 大阪中之島美術館

◎ 万博公園 太陽の塔（大阪） ◎ 国立民俗学博物館（大阪）

・作品の中で泊まれるアート・ホテルも。泊まらなくても観れるギャラリーやカフェもあります。

◎ BnA Alter Museum（京都） ◎ ホテル アンテルーム 京都

・仏像を観にお寺に行くのもいいですね。日本が誇るキャラクター文化の源流かも？

- ◎ 広隆寺 半跏思惟像（京都） ◎ 六波羅蜜寺 空也上人立像（京都）
- ◎ 興福寺 阿修羅像（奈良） ◎ 法隆寺 百済観音像（奈良）
- ◎ 東大寺ミュージアム（奈良） ◎ 奈良国立博物館

・アート関係の本も充実の、個性的な本屋さん。ぜひ足を運んでみてください！

- ◎ 恵文社一乗寺店（京都） ◎ 誠光社（京都） ◎ ホホホ座（京都） ◎ 京都 蔦屋書店

おすすめのWEBサイト

・下記Webサイトでは、アートのいろんな情報や、美術館・ギャラリーの展覧会スケジュールなどを調べられます。

- ◎ 「美術手帖」 <https://bijutsutecho.com>
- ◎ 「アートスケープ」 <https://artscape.jp>
- ◎ 「京都アートワーズ」 <https://kyoto-artwords.com>（京都のギャラリー情報）
- ◎ 「Kansai Gallery Map」 <https://kansai-gallery-map.info/about>（関西のギャラリー情報）

●デザイン学部イラスト学科

おすすめの本

- ◎ 『日本イラストレーション史』（美術手帖編集部/美術出版社）

日本イラストレーションの歴史を1950年代から現代まで網羅。イラストレーションを通して、日本のポップ・カルチャーの歴史が感じられる1冊。

- ◎ 『ぼくの美術帖』（原田 治/みすず書房）

オサムグッズで知られるイラストレーター原田治が、時代もジャンルも超越した美術作家たちを、豊富な知識と揺るぎない美意識で紹介した「OSAMU版・日本美術史」。アートへの愛が溢れる美術エッセイ。

- ◎ 『ぼくの絵本じゃあに』(荒井良二/NHK出版新書)

大人の常識に縛られず、子どものように自由に考え、描くにはどうすればいいか。絵を描くために大切な感覚が学べます。

- ◎ 『絵本作家になるには』(小野 明、柴田こずえ/ペリかん社)

絵本の現場の紹介に始まり、その歴史から絵本作家として活動するまで、心構えなどを詳しく学べます。500冊以上の絵本・児童書を送り出してきた本学イラスト学科教員の著書。

おすすめの映画

- ◎ 『ある画家の数奇な運命』（監督：フロリアン・ヘンケル・フォン・ドナースマルク）

現代アートの巨匠、ゲルハルト・リヒターの半生をモデルにした映画。ナチス政権下から激動期のドイツを舞台に芸術の自由と自分だけの表現手法を追い求める芸術家の姿を見つめる。

- ◎ 『ハーブ&ドロシー _アートの森の小さな巨人』（監督：佐々木芽生）

ニューヨークのアパートで暮らす元郵便局員ハーブと元司書ドロシー。お気に入りの現代アートを約30年間コツコツと買い集めたアート収集家夫婦のドキュメンタリー。

◎『バスキア』（監督：ジュリアン・シュナーベル）

80年代ニューヨークで活躍した画家ジャン＝ミシェル・バスキアの生涯を描いた作品。ニューヨークのアートシーンを背景に、バスキアの実作やアンディ・ウォーホルとの交流を描く。

◎『ブリューゲルの動く絵』（監督：レフ・マイェフスキ）

16世紀フランドル絵画の巨匠ピーテル・ブリューゲルの作品の中に入り込み、絵画の世界を旅するような感覚を味わえる体感型アートムービー。

おすすめの場所

・美術館、博物館

- ◎ 京都市京セラ美術館
- ◎ 京都国立近代美術館
- ◎ 京都国立博物館
- ◎ 国立民俗学博物館（大阪）

・書店

- ◎ 恵文社一乗寺店
- ◎ 誠光社
- ◎ 子どもの本専門店メリーゴーランド京都

おすすめのWEBサイト

◎「TOKYO ILLUSTRATORS SOCIETY」

一般社団法人東京イラストレーターズ・ソサエティ（略称：TIS）の公式サイト。第一線で活躍するTIS会員イラストレーターの仕事や展覧会情報を知ることができます。

<https://www.tis-home.com>

◎「illustration File Web」

雑誌『イラストレーション』（玄光社）が運営するイラストレーター検索サイト。約900名のイラストレーターの作品を直感的な操作で検索することができます。

<https://i.fileweb.jp/>

アドバイス

落書きでも良いので、毎日手を動かして絵を描くことをしてください。美術館やギャラリーで作品を観たり、本を手にとって読んでみたり、映画や音楽、ファッションなど、創造力を広げるために様々なものごとから、面白いと感じるものを吸収してください。

● デザイン学部ビジュアルデザイン学科

おすすめの本

◎『書と文字は面白い』（石川九楊/新潮社/1996）

書道家である石川九楊が、文字に関する様々なことを「書」を原点として書いている本です。ワープロなどが普及して、自分で字を書くことが少なくなり、文字について考えることがなくなったような気がします。こんな時代だからこそ読んで面白い本かもしれません。

◎『センスは知識からはじまる』（水野 学/朝日新聞出版/2014）

「くまモン」アートディレクションなどで話題の、日本を代表するデザイナー発「センスの教科書」。センスは生まれついたものではなく、あらゆる分野の知識を蓄積することで向上することを説く。顧客の嗜好が多様化する時代、スキルよりもセンスを磨くことで、仕事を成功させるノウハウを紹介しています。

◎『百年の孤独』（G・マルケス/新潮社/2006）

蜃気楼の村マコンド。その草創、隆盛、衰退、ついには廃墟と化すまでのめくるめく百年を通じて、村の開拓者一族ブエンディア家の、一人からまた一人へと受け継がれる運命にあった底なしの孤独は、絶望と野望、苦悶と悦楽、現実と幻想、死と生、すなわち人間であることの葛藤をことごとく呑み尽しながら…。20世紀が生んだ、物語の豊潤な奇蹟。言葉から読み解くイメージ展開力を養えます。

◎『風と光と二十の私と』（坂口安吾、坂口三千代ほか/講談社/1988）

“余は偉大なる落伍者となって歴史のなかによみがえる”雪の国新潟の教室の机に彫って上京し、あえて、孤独な自己鍛練の世界に彷徨する、“精神の巨人”坂口安吾の繊細にして豪放、聖にして俗の、ダイナミックな自伝世界。青春時代に必ず読んでおいてほしい一冊。

◎『田中一光とデザインの前後左右』（21_21 Design Sight I、小池一子/フォイル/2012）

日本を代表するグラフィックデザイナー田中一光の軌跡と功績。今年で没後10年、これまでの彼の偉業を、グラフィックデザイン作品を中心とした豊富な図版と、豪華執筆陣を交えたふんだんなテキストで10章立てで展開します。デザインの普遍的で変わらない役割や先見眼について知ることができます。

◎『ていねいな文章大全 日本語の「伝わらない」を解決する108のヒント』（石黒 圭/ダイヤモンド社/2023）

文章が伝わらない最大の理由は为什么呢？へただからではありません。「雑」だからです。本書では、国立国語研究所の教授が、「雑な文章」を「ていねいな文章」へ書き換える方法を108課目、すべてbefore→after形式で徹底解説します。書き言葉を自分だけの言葉だけで作るのではなく、先人の言い回しを拝借しながら豊かな文章表現力を育てましょう。

◎『自由訳 般若心経』（新井 満/朝日新聞社出版/2005）

『千の風になって』『青春とは』につづく感動の自由訳、第三弾！日本で最も親しまれている経文に込められたメッセージとは？私たちの日常生活の中で「色即是空 空即是色」は、いかなる意味として了解すればよいのか？死んでなお、私たちに救いはあるのか？1,200年にわたって明かされなかった「般若心経」を、いまを生きる人々の実感から捉えた、「在るがまま」を肯定する救済と再生の書。アジアに生きるデザインの思想が詰まっているかも。

おすすめのWEBサイト

◎ 「Colossal」

英語サイトですが、海外のアート、デザイン、写真など最新情報が紹介されている
<https://www.thisiscolossal.com>

◎ 「NEWREEL」

今注目すべき映像作品を紹介 <https://newreel.jp>

◎ 「Pinterest」

自分の好きな画像を世界中からブックマークするツール <https://www.pinterest.jp>

おすすめの体験

「小さい遠足」をおすすめします。ご近所、隣の町、ひと駅となりの街など、見知らぬ場所、見落としている場所を未知のデザインと触れる姿勢で訪れてみてほしいです。細やかな観察力が自身のセンスを上げてくれます。

アドバイス

今までは、コンテンツに対して消費者的な受け身な面が大きかったと思いますが、今後はつくり手としての視点を持つことが必要になってきます。自分がそのコンテンツに対して心惹かれる理由、大勢の人が熱狂する理由を常に考えることを心がけてください。

それと同時に社会情勢やトレンド、最新の技術にも常にアンテナを張っていて欲しいと思います。

● デザイン学部プロダクトデザイン学科

おすすめの本

◎『「もの」はどのようにつくられているのか？ —プロダクトデザインのプロセス事典』(Chris Lefteri/オライリージャパン/2014)

◎『誰のためのデザイン？ (増補・改訂版) —認知科学者のデザイン原論』(D.A.ノーマン/新曜社/2015)

◎『エモーショナルデザイン—微笑を誘うモノたちのために』(D.A.ノーマン/新曜社/2004)

◎『RE DESIGN—日常の21世紀』(原 研哉、日本デザインセンター原デザイン研究所/朝日新聞出版/2000)

◎『新幹線をデザインする仕事 「スケッチ」で語る仕事の流儀』(福田哲夫/SB クリエイティブ/2015)

◎『感性ポテンシャル思考法』(村田智明/生産性出版/2017)

◎『おしよりん』(藤岡陽子/ポプラ社/2016)

おすすめの場所

◎ 京都市京セラ美術館 ◎ 京都国立近代美術館 ◎ 京都国立博物館 ◎ 河井寛次郎記念館

◎ 国立民族学博物館 (大阪)

アドバイス

暮らしや社会の中で取り扱われる様々なモノやコトを生み出すデザイナーとして、その意味や意義をしっかりと考える必要があります。売れそうな所に向けて物を沢山作って販売するだけの前世紀的な時代ではありません。世の中の出来事、経済などの動向にもしっかりと意識を向けなければデザインの真の力や価値を発揮する事は出来ないと言っても過言ではないと思います。10

年後、20年後の我々のためにしっかりと考え抜いてデザインする。デザインビジネスの基本だと思いますので、身の回りの些細な事もしっかりと知っておくように心がけてください。

● デザイン学部建築学科

おすすめの本

- ◎ 『新・建築入門』 (隈 研吾/筑摩書房/1994)
- ◎ 『人類と建築の歴史』 (藤森照信/筑摩書房/2005)
- ◎ 『14歳からのケンチク学』 (五十嵐太郎ほか/彰国社/2015)
- ◎ 『建築学の教科書』 (安藤忠雄ほか/彰国社/2003)
- ◎ 『建築学のすすめ』 (traverse 編集委員会/昭和堂/2015)
- ◎ 『建築を知る』 (建築学教育研究会/鹿島出版会/2014)
- ◎ 『都市彷徨』 (安藤忠雄/マガジンハウス/1992)
- ◎ 『陰翳礼讃』 (谷崎潤一郎/出版社多数)
- ◎ 『伽藍が白かったとき』 (ル コルビュジェ/岩波書店/2007)
- ◎ 『空間の詩学』 (ガストン・バシュラール/筑摩書房/2002)

おすすめの場所

地元の美術館、博物館、図書館、寺社仏閣:外観と内部空間を観察しましょう

- ◎ 桂離宮庭園 (京都市西京区) ◎ 平等院鳳凰堂 (京都府宇治市)
- ◎ 清水寺 (京都市東山区) ◎ 竜安寺石庭 (京都市右京区)
- ◎ 銀閣寺東求堂同仁齋 (京都市東山区) ◎ 妙喜庵待庵 (京都府大山崎町)
- ◎ 河井寛次郎記念館 (京都市東山区) ◎ 北村美術館・四君子苑 (京都市上京区)
- ◎ 聴竹居 (設計:藤井厚二、京都市大山崎町)
- ◎ とらや京都一条店 (設計:内藤 廣、京都市上京区)
- ◎ 京都国立博物館/平成知新館 (設計:片山東熊、谷口吉生、京都市東山区)
- ◎ 京都市京セラ美術館 (改修設計:青木 淳、西澤徹夫、京都市左京区)

おすすめの映画

- ◎ 『ブレードランナー』 (監督:リドリー・スコット、美術:シド・ミード)
- ◎ 『未来世紀ブラジル』 (監督:テリー・ギリアム)
- ◎ 『建築家の腹』 (監督:ピーター・グリーナウエイ)
- ◎ 『マイ アーキテクト ルイス・カーンを探して』 (監督:ナサニエル・カーン)
- ◎ 『スケッチ・オブ・フランク・ゲーリー』 (監督:シドニー・ポラック)
- ◎ 『ノスタルジア』 (監督:アンドレイ・タルコフスキー)

アドバイス

- ・ 分野を問わず興味ある事に対して行動を起こしてみよう。(見る、訪ねる、読む、聞く、創る、会う etc...)

- ・ 何か時間を忘れるぐらいのコトに没頭してみよう。建築の世界観は全てと繋がっているので何でも良いです。
- ・ 新たな発見があるかもしれないと思いながら、外に出て散歩をしてみよう。日頃とは違う何かに気づくかもしれません。

● 人間環境デザインプログラム

おすすめの本

人間環境デザインプログラムの学びには、問いたて、観察そして見つけた課題をデザインで解決を考えることがあります。ここでおすすめする書籍は、いずれもみんな毎日関わっている環境、社会などに対して意識させられる内容です。実際に手にとって、自分の周りで起こっていることと照らし合わせてみてください。

- ◎『コミュニティデザイン—人がつながるしくみをつくる』(山崎 亮/学芸出版社/2011)
- ◎『京都の町家を再生する』(齋藤由紀ほか/関西学院大学出版会/2015)
- ◎『人口減少社会のデザイン』(広井良典/東洋経済新報社/2019)
- ◎『人が集まる建築 環境×デザイン×こどもの研究』(仙田 満/講談社/2016)

おすすめの場所

- ◎ 人が集まる場所や公園など
- ◎ 古くなっている家(コミュニティ)などの再生例
- ◎ 過疎地へ足を運び、人々がどのような生活をしているかを観察

アドバイス

自分の周りには何があるの?普段意識しない、モノ、ヒト、コトを少しでも意識して見てください。そこには複数の学びがあり、複数の課題もあるはずです。この日常の観察を記述することで、人間、つまり自分を取り巻く環境への気づきが生まれます。

● マンガ学部マンガ学科

おすすめの本

- ◎『もいもい』(市原 淳/ディスカヴァー・トゥエンティワン/2017)

「あかちゃん」が選んだあかちゃんのための本。表現の原点を“あかちゃんの視点”から考えてみるきっかけにしてみてください。楽しみながら、自分で問いをたてながら、自分の好奇心を育てましょう。

- ◎『あなたの知らない脳』(デイヴィッド・イーグルマン/早川書房/2016)

これから経験する新しい大学生活。「“経験する自分”っていったい何だろう?」表現と心理学に興味のある人には特にオススメの本です。

- ◎『モルフォ人体デッサン』(ミシェル・ローリセラ/グラフィック社/2019)

格好良いポーズを描きたい時、そのために知りたいちょっとした筋肉の付き方をわかりやすく描いている実用書。人体の捻じれなど、直立している絵からでは想像し難い構図を多数載せてくれています。

◎『マンガ脚本概論 漫画家を志すすべての人へ』（さそうあきら/双葉社/2021）

元本学マンガ学部教員（在任は2020年まで）による、マンガ創作を志す学生のための、ストーリーの発想法について、マンガ形式で解説した実践的な入門書。

◎『描きたい!!を信じる 少年ジャンプがどうしても伝えたいマンガの描き方』（少年ジャンプ編集部/集英社/2021）

ジャンプの大ヒット漫画家たちの描きおろしネームやアンケートを収録。漫画を描くときに必ず出てくる疑問から練習法、描けない時の壁の超え方など興味深く解説する入門書です。

◎『驚くほどうまくなる! マンガ背景技法』（常野 啓/美術出版社/2013）

背景など空間を描く技法はマンガやアニメを描く上で避けては通れません。しかしながら、その技法は多分に「数学的」な知識を必要とします。それを簡単に理解できるように解説しているのが本書です。パース技法の基本が勉強できます。

◎『<面白さ>の研究』（都留泰作/KADOKAWA/角川書店/2015）

「面白さ」とは何か? 「エンタメの論理」をマンガやマンガを取り巻く映画・アニメ作品を題材に、文化人類学的な考え方も用いながら考察する。

おすすめのWEB サイト

◎「ヒトカク」

人体を描くための基本が楽しく簡単に学べるサイトです。ノートと鉛筆（またはタブレット）を持って、毎日1ページずつ描いてみるのも良いでしょう。

<https://www.asahi-net.or.jp/~Zm5S-NKmR/index.html>

◎「Pinterest」

画像検索サイト。外国の人も多く使っており、Pixivに比べると全体的に絵のクオリティが大変良い。デザインや装飾なども見つけやすい。絵の描き方を説明しているものが多く出てくるが、どれも大変参考になる。これだけでも、十分なテキストになる。

<https://www.pinterest.jp>

おすすめの映像

◎ 映画館で上映されている作品

できるだけ色々な映画を、映画館で観てみましょう。パソコンでながらで観るのではなく、集中して観ないと学べないものがあります。

おすすめの場所

◎「卒業・修了制作展」（京都精華大学）

◎ 京都国際マンガミュージアム（京都市） ◎ おもちゃ映画ミュージアム（京都市）

アドバイス

マンガにおいて勉強になるものは本や映画だけではありません。身の回りにあるものや人、出来

事全てがマンガのための材料になります。それを記録するためにスケッチブックやネタ帳を常に持ち歩く癖をつけましょう。興味を持ったものは何でもその場で記録しておくことが大事です。スケッチしたり、言葉でメモを取ったりしておきましょう。デイスカバリーダイアリーはいい練習になります。

● マンガ学部アニメーション学科

おすすめの本

◎『モルフォ人体デッサン』（ミシェル・ローリセラ/グラフィック社/2019）

格好良いポーズを描きたい時、そのために知りたいちょっとした筋肉の付き方をわかりやすく描いている実用書。人体の捻じれなど、直立している絵からでは想像し難い構図を多数載せてくれています。

◎『あなたの知らない脳』（デイヴィッド・イーグルマン/早川書房/2016）

これから経験する新しい大学生活。「経験する自分」っていったい何だろう？」表現と心理学に興味のある人には特にオススメの本です。

◎『アニメーターズ・サバイバルキット』（リチャード・ウィリアムズ、グラフィック社）

アニメーション制作に必要な物の考え方と、そのプロセスの名著。

◎『驚くほどうまくなる！マンガ背景技法』（常野 啓/美術出版社/2013）

背景など空間を描く技法はマンガやアニメを描く上で避けては通れません。しかしながら、その技法は多分に「数学的」な知識を必要とします。それを簡単に理解できるように解説しているのが本書です。パース技法の基本が勉強できます。

◎『ディズニーアニメーション 生命を吹き込む魔法 —The Illusion of Life—』（フランク・トーマス、オーリー・ジョンストン）

ディズニーやアニメーターたちが残した、アニメーションの原則と表現方法について語り継がれる良書。

◎『もぐらのスタジオ ～もりやすじ画集』（もりやすじ/アニドウ・フィルム/2013）

日本のアニメーション創成期に活躍したアニメーター・もりやすじ。たくさんの魅力的なキャラクターから感じる表現。絵を通して“もりやすじ”という人物が浮かび上がる画集です。

おすすめのWEB サイト

◎「ヒトカク」

人体を描くための基本が楽しく簡単に学べるサイトです。ノートと鉛筆（またはタブレット）を持って、毎日1ページずつ描いてみるのも良いでしょう。

<https://www.asahi-net.or.jp/~Zm5S-NKmR/index.html>

◎「Pinterest」

画像検索サイト。外国の人も多く使っており、Pixivに比べると全体的に絵のクオリティが大変良い。デザインや装飾なども見つけやすい。絵の描き方を説明しているものが多く出てくるが、どれも大変参考になる。これだけでも、十分なテキストになる。

<https://www.pinterest.jp>

おすすめの映像

◎『ようこそ映画音響の世界へ』（監督：ミッジ・コスティン）

出演者：ウォルター・マーチ/ベン・バート/ゲイリー・ライドストローム/ジョージ・ルーカス/
スティーヴン・スピルバーグ/デヴィッド・リンチ/アン・リー/ライアン・クーグラー/ソフィ
ア・コッポラ

音楽、声、効果音など、映画を彩る様々な音はどのように作られ、どういった効果を生んでいるのか。映画に命を吹き込む映画音響の世界とその歴史を紐解くドキュメンタリー映画。映画音響とは、観客を作品世界に引き込んでいく未知なる音作り。それに挑み続ける音響技術者たちの飽くなき挑戦と奥深き仕事の秘密を探る。

<https://www.kinokuniya.co.jp/f/dsg-10-4988003877552>

◎ アニメーション学科 youtube (@seikaanimation)

過去精華アニメ在籍学生の制作作品集。自分たちが目指し、超えなければならない作品群を鑑賞し、目的や目標を立てましょう。

<https://www.youtube.com/@seikaanimation>

◎ 映画館で上映されている作品

できるだけ色々な映画を、映画館で観てみましょう。パソコンでながらで観るのではなく、集中して観ないと学べないものがあります。

◎ いろいろな国のいろいろな時代のいろいろな実写映画作品。

例：黒澤明『七人の侍』『用心棒』『乱』、小津安二郎『東京物語』、ウィリアム・ワイラー『ローマの休日』、S・S・ラージャマウリ『バーフバリ』2作、イ・サングン『EXIT』、リチャード・リンクレイター『スクール・オブ・ロック』、ジョン・M・チュウ『Crazy Rich Asians』（日本版タイトル『クレイジーリッチ!』）など

おすすめの場所

◎ 「卒業・修了制作展」（京都精華大学）

◎ 京都国際マンガミュージアム（京都市） ◎ おもちゃ映画ミュージアム（京都市）

◎ 三鷹の森ジブリ美術館（東京都）

アドバイス

大学での本格的な学習が始まるまでに自分へのインプットを増やしておいてください。おすすめにあげた本やWEBサイト、様々な映画(アニメだけでなく実施作品も!)を見たり、美術館や博物館を訪れたり、あるいは普段は通り過ぎてしまうような駅で降りて、その街を少し散歩してみるというのもよいでしょう。自分の中のインプットが増えればアウトプット(作品の制作など)できる量や幅も自然に増えていくでしょう。